此次項ニ右舷左舷組ヲ分チ及ヒ諸所掃除掛番數等之事アレ𪜈署之

艦内定則

一乗組之者一同船中ニ於テ右舷左舷ト二タ側ニ相分リ可申事

一水夫初メ一同毎朝五時四十五分ニ起キ六時迄ニ釣床ヲ翳舷ニ相納メ可申事

一六時ニ至リ乗組一同銘々之居場所ヲ片附可申且船内外夫々受持之場所ヲ洗拂シ七時迄ニ相仕舞可申事

一夫ヨリ磨場ニ於テ夫々請持之諸器ヲ相磨キ七時半迄ニ仕舞可申事

一七時半乗組一同朝飯相用可申食事畢テ後右之磨キタル諸器械ヲ元之場所へ直シ置キ可申事

一第八時乗組一同着替致シ船中掃除可致事

一第八時半ニ至リ船將人數改有之候事

一第九時ヨリ朝頗之者甲板上ニ於テ仕事相始メ可申尤調練有之節ハ乗組一同甲板上ニ於テ調練可致事

一第十一時ニ仕事ヲ仕舞甲板上掃除可致事

一正午乗組一同晝飯相用可申事

但シ午後一時迄ニ諸食器不殘片付可申事

一午後第一時半ニ至リ晝頗之者調練或ハ仕事ニ取掛リ可申事

一第五時仕事ヲ仕舞甲板上掃除可致事

一第五時五分戰爭之合圖太鼓ヲ擊ハ各戰ノ持場ニ至リ可申事

一五時半乘組一同夕飯相用可申事

但六時半迄ニ諸食器類不殘片付可申事

一食事畢テ後合圖之太鼓ヲ擊タシメ水夫始一同釣床ヲ翳舷ニ取出シ可申事

一夜中九時ニ水夫部屋之火ヲ不殘打消シ可申其後一同寢所ニ着キ可申事

右之通相心得可申事

夜中之心得

一水兵當番之者八人幷小頭一人晝夜共甲板上ニ在リテ船外之事ヲ能々心附可申尤時限ヲ以テ交代致シ相勤可申事

一每夜助救船之用意等心得可申事

一若夜中非常之儀有之節ハ乘組之一ト側起キ候テ晝中之如ク仕事致シ可申事

右之通リ可相心得事

番兵勤方之心得

一番兵ハ八人ノ水兵及其小頭壹人ニテ致スヘシ

一水兵ハ一番二番之端船乘組ナルヿヲ兼テ承知アルヘシ若一番二番之端舟出船之時水兵乘組不足ナル時ハ右當番水兵八人之內三人ヲ除クノ外ヨリ助合可致事

一番兵之勤ハ人數改相濟交代可致事

但本日當番之者ハ當番小頭之命ヲ請ケ後部甲板上ニ列シ可申尤ケエ―ル及ヒタスヲ帶ス可キ事

一明番之者人數改之節ハ銃ヲ帶スルニ及ハス甲板上後部ニ列スヘシ其内三人ハ其守場所ヲ立去ル可カラス

一人數改畢ルヤ否ヤ當番小頭ハ三人之番兵ヲシテ其守場所ニ交代セシムヘシ

一當番之者ハ太鼓三ッ打鳴候得ハ速ニ銃ヲ持チ後部ノ定場所ニ馳付ヘシ

但シ當番三人ハ出ルニ不及

シキルドワフト之心得

一「シキルドワフト」ハ前部バック上ニ一人右左舷タヲップ之元ニ一人ッ、居ル可キ事

但シ夜中ハ兩人ニテヲ―プルロ―プル上ニ居ル可キ事

一當番之者ハ常ニ見苦カラサル衣服ヲ着シ且小銃并タス等奇麗ニ致シ麁忽無之樣相心得ヘキ事

一當番中之者公用談之外ハ他之者ト話シ等致ス間敷事

一當番之近邊ニテ不行跡之者有之ハ當番之者之ヲ咎ム可キ事

一當番小頭ハ其番兵ヲシテ正直ニ勤メシメ且其衣服等ニ心ヲ用ユヘキ事

一如何ナル摸樣有之トモ番兵ハ其居場所ヲ聊立去ル可カラス

タラップ當番之心得

一大檣之元ヨリ後部之方ニ無用之水夫等ヲ歩行セシムヘカラス

但當番水夫ハ左舷之方ヲ行シムヘシ

一銘々之守場所ニハ無用之人ヲ寄付ヘカラス

一無用之小船ハタラップ之下ニ附置ヘカラス尤用事有之テモ暫時ナラテハ附置クヿ無用タルヘキ事

一右舷タラップ之下ニハ士官以上乘組之外ハ必ス端船ヲ附シム可カラス

一士官幷諸方之士官來艦之時ハ右舷番兵ハ海軍恭禮ヲ行フ可シ

バック上番兵之心得

一バック上ニハ休時之外ハ水夫等之來ルヲ免ルス可カラス且衣類等干ス可カラサラシム

ヲ―フルロ―プル番兵之心得

一夜中ヲ―フルロ―プルヿ之番兵ハ本船近邊ニ近寄ル舟其外諸件ヲ心附若シ疑シキヿト見受候得ハ早速當番士官ヘ告知スヘシ

一毎朝甲板上ヘ當番側ヨリ笛手小頭一人ヲ撰ミ當番ヲ致サシムヘシ且當番中ハ彼ヲシテ笛吹クヿヲ司ヲシム可シ

一毎日甲板上之諸運働ハ當番士官之ヲ指揮シ號令ヲ傳フ可

シ

但シ都テ號令ハ緊要ナルヲ以テ可成丈ケ大聲ヲ發ス可シ

號令ヲ再告スル役

一皷手　一笛手

一皷手ハ當番士官之號令ニ因リテ皷ヲ打チ衆人ヘ相圖ヲ致ス可シ

一笛手ハ皷手同樣當番士官之號令ニ因リテ笛ヲ吹キ衆人ヘ其號令ヲ傳フヘシ但シ水夫部屋ニ於テ上ケ板ヲ開閉スル節幷定笛之外ハ言語ヲ以テ號令ヲ傳フ可シ

一平日吹笛之規定左ニ記載ス

1印 端舟用意之笛　2印 同斷

3印 グランイヨル同斷

4印 ハレニエール同斷　5印 ヘチーイヨル同斷

一水夫等食事之節　一水夫等ヲ甲板上ヘ呼出ス節

一調練之節一同ヲ呼出ス時　一檣上人ヲ呼ブ節（大檣　前檣　後檣）

一呼寄セシ水夫等ヲ退カセル節

其他都テ運用ニハ笛ヲ用ユ可シ則チ

一帆ヲ揚ル節　一掃除スル節　一帆ヲ卸ス節　一轆轤ヲ廻轉スル節　一將官來艦スル節幷出艦スル節　一氣附之笛

一端舟用意之笛　一同梯子段下ヘ引附ル節　一氣附之笛

一端舟ヲ引揚ル場ヘ誘ク節　一同引揚ル節　一氣附之笛

一轆轤ヲ卷ク節

一大檣掛リ之運用方ヲ檣ヨリ卸ス節

毎朝起シ太鼓

一第五時五十五分鼓手既ニ起キ鼓ヲ打チ衆人ヲ起ス可シ且衆人此鼓聲ヲ聞ヤ否ヤ直ニ起キ自己之釣床ヲ取片附バスタンガ―ジエ迄持運ヘシ尤檣上人ハ衆人之釣床ヲ受取リ其中ヘ收ム可キ爲メニ即時ニバスタンガ―ジエ之側ニ往可シ

一五時五十五分ニ鼓手官ハ諸釣床ヲバスタンガ―ジエヘ收ムヘキヲ指示ス可シ

一第六時ニ笛手當番之小頭ハ氣附之笛ヲ吹キ衆人ヲシテ艦內洗掃之場所并磨物之場所ヲ指示シ其後即時ニ洗掃ニ取掛リ可申事

但七時限ニ終ルヘシ

一第七時ニ至リ當番士官之號令ニ因リテ笛手當番小頭氣附之笛ヲ吹磨物掛リ之水夫等ヲシテ磨場ニ赴カシメ自持之諸器ヲ磨カセシム可シ

一第七時半當番士官之號令ニ依リ當番小頭笛ヲ吹衆人ニ朝飯スヘキヿヲ告知ス可シ但シ食事終リ八時十五分迄ニ一同衣服着替スヘシ

一第八時十五分ニ至リ當番笛手之小頭笛ヲ吹キ艦內ヲ掃除ス可キヲ指示シ諸物皆規則通リニ置カシムヘシ

一七時半ヨリ八時半迄ニ當日當番之小筒組ハ火藥袋ヲ負ヒ小銃ヲ所持ス可シ

一第八時半ニ至リ鼓手人數改之太鼓ヲ打甲板上ヘ衆人ヲ呼出ス可シ其時衆人皆甲板上之左右ニ順列ヲ備ヘ可申事

一此時ニ當番士官一人急速此二列之中央ヲ通行ス可シ其日ニ當リテ病人等有之ハ一組之小頭其番號并名前ヲ告知ス可シ此士官其人名ヲ小本ヘ留メ第一等士官ヘ報ス可シ

一當日當番之小筒組五人ハ銃ヲ所持シ其小頭ト艦内之後部ヘ列ヲ備フヘシ尤其内三人ハ自持之場所ニ於テ當番致ス可シ

一其後當番士官ハ小頭ヲ引誘シ整列之中央ヲ通行シ衆人ノ衣服等ヲ改ム可シ但シ當番端舟掛之内病人有之ハ代理ヲ命ス可シ尤モ左部ニ病人有ル節ハ左部ヨリ代リヲ命ス可ク右部ニハ右部ヨリ代リヲ命ス可シ

一此時間中ニ甲比丹ハ第一等士官ト艦内ヲ通行シ大砲等ヲ點檢ス可シ

一甲板上ニ整列シタル衆人ハ甲比丹之歸リ來ル迄ハ列ヲ亂スベカラス且當番士官ハ一等士官ヘ水夫等ノ衣服之清汚ヲ告ヘシ其後甲比丹之指揮ニ依リテ一同退散ス可シ

一日曜日ニハ甲比丹諸器諸品ヲ點檢セシ後整列之中央ヲ通行シ又前列ヲ一歩進マセ前後列之中央ヲ通行シ衣服之清汚ヲ改ム可シ

一第九時ニ至リ當番士官之號令ニ由リテ當番小頭笛ヲ吹キ當番側ヲ甲板上ニ呼出シ一等士官之指揮ニ依リテ各仕業ニ取掛セ可申事

一第十一時半ニ至リテ當番士官之號令ニ由リテ小頭氣附之笛ヲ吹仕業ヲ終ヲシム可シ其後又笛ヲ吹キ甲板上ヲ掃除セシム可キ事

一掃除畢リテ一同部屋ヘ退散ス可シ

一正午當番士官之號令ニ依リテ小頭笛ヲ吹キ衆人ニ晝飯ヲ用ユ可キヿヲ告知スヘシ尤番兵三人ハ殘ル可シ

一零時五十五分ニ當番小頭笛ヲ吹食器ヲ片附ヘキ事并其場所ヲ掃除ス可キヲ告ケ一時迄ニ畢ル可シ

一第一時半ニ晝後側一同ヲ呼出シ各仕業之場所ヲ示ス可シ

一四時半ニ當番士官之號令ニ依リテ當番小頭笛ヲ吹不用之端舟ヲ引揚クヘシ

一第五時ニ衆人皆仕業ヲ卒ルヘシ但シ毎朝之如ク甲板上ヲ掃除スヘシ

戰列ヲ備ル時限割

一第五時五分皷手方皷ヲ打チ衆人ニ戰列ヲ備ヘサスヘシ其時大砲方ハ直ニ自持ノ大砲ノ側ニ赴キ彈丸火藥掛之水夫ハ其藏之近傍ニ在ル梯子段下ヘ列ヲ備フヘシ

一甲板上人ハ守場ニ列ヲ備フ可シ

一此時人員ヲ呼出ス士官左之通リ

一島津氏ハ大砲方ヲ呼出ス可シ

一松村氏ハ彈丸火藥掛リヲ呼出ス可シ

一市川氏ハ器械方ヲ呼出ス可シ

一鈴木氏ハ甲板上組ヲ呼出ス可シ

一第一等士官西川氏ハ小林錄藏ヲ引誘シ艦内ヲ通行シ其節過刻人數ヲ呼出セシ士官等ハ其戰列ニ於テ人數之十分或ハ不足ヲ告ク可シ

一第一等士官ノ見廻畢リテ一同退散之號令ヲ發ス可シ
一其後一等士官事之摸樣ヲ逐一甲比丹へ告知ス可シ
一五時半ニ至リ衆人皆夕飯ヲ用ユヘシ
一六時二十五分ニ至リ食器ヲ片付其場ヲ掃除ス可シ
一六時半ニ至リ太鼓手氣附ノ鼓ヲ打チ甲板上ヘ人數改メノ如ク水夫等ヲ呼出シ列ヲ整ハシム可シ此時當番士官夜中當番之番號并翌朝當番之番號ヲ高聲ニテ讀上可シ且當日有罪之者并有賞之者ヘハ夫々ニ賞罰ヲ與フ可シ
一其後士官之號令ニ依リテ檣上人バスタンカ―シエヘ登リ釣床ヲ卸スヘキ用意ヲ致ス可シ此時水夫一同自分之釣床ヲ請取ル用意ヲ致ス可シ
一第二之號令ニ因リテ水夫等自分之釣床ヲ受取ルヘシ且檣上人ハ釣床ヲ渡シバスタンガ―シエヲ覆掩ス可シ
一九時ニ至リ當番小頭氣附之笛ヲ吹水夫部屋之火ヲ消ス可キ事并一同沉靜ニ可致事等ヲ指示ス可シ
一其時水夫部屋ニ有ル所ノ諸燭ヲ消シ唯夜中用心之ランテルス而已ヲ殘スヘシ即水夫部屋ニ於テ要用ナルランテルス二ケ所ナリ
一定燭「ホ―ル」水夫部屋ニ一ケ所
一士官部屋ノ側ニ一ケ所

以上

艦内挨拶之規定

一艦内之後部ハ挨拶之場所ニシテ士官之防護スヘキ所ナリ且其右部ハ最モ大切ナル所ナルヲ以テ士官之外此所ニ往

還スルヿ幷此所ヨリ水夫商人之來艦及ヒ出艦スル事ヲ許ス可カラス

一日本士官或ハ外國士官來艦スル節ハ艦之右部ヨリ誘引ス可シ

一奉行來艦スル節ハ船將及一等士官當番士官甲板上ニ於テ挨拶ヲ致ス可シ其節當番小頭ハ三度笛ヲ吹キ番兵ヲ集メ艦內後部之守場ヘ列ヲ整シメ筒ヲ肩ヘ執ラス可シ且皷手ハ皷ヲ打見張之番兵ハ梯子段之元ニ於テ筒ヲ捧ク可シ

一ヘ｜リ｜之船將來艦之節ハ前同斷之式ヲ行フ可シ尤當番小頭ハ一度笛ヲ吹キ番兵ハ筒ヲ建テ且皷手ハ皷ヲ打ツヿ無カラシム可シ

一船將來艦ズル節ハ前同斷之式ヲ行ヒ當番小頭ハ一度笛ヲ吹キ番兵ハ其守場ヘ列ヲ備フ可カラス

一其他諸士官來艦之節ハ當番士官一人ニテ挨拶ヲ致ス可シ且笛手ハ一度笛ヲ吹キ見張之番兵ハ肩ヘ筒ヲ執ル可シ

一休息時ニ士官來艦之節當番一人ニテ挨拶シ番兵ハ決シテ列ヲ備フヘカラス

一晝中奉行衆來艦之節ハ梯子段ノ兩側ヘ水夫三人ツヽ出ス可シ

一船將來艦之節ハ同所ヘ一人ツヽ水夫ヲ出ス可シ

一右將官出艦之節モ同斷之挨拶ヲ致ス可シ

祝砲之規定

一大砲十挺ヨリ以上ヲ所持スル軍艦ニ於テハ祝砲之式ヲ行

フヘシ

一軍艦他國ヘ着岸セシ時ハ祝砲之式ヲ行フ可シ

一軍艦或ル港ヲ出帆シ六ケ月ヲ經テ歸港スル節ハ祝砲ヲ行フヘシ

一航海中六ケ月以來出會セサル將官之親友之乘組タル軍艦ニ出逢ヒシ時ハ前同斷

一祝砲ハ先方ヨリ砲發シタル員數ヲ以テ返砲ヲ致ス可シ尤同國之將官ニ對シ祝砲スル節ノ規定ニテ行フ可シ

一皇帝　國王　百一發

一國王之親族　二十一發

一勅使　一等ミニストル　十九發

一外國事務ミニストル　十七發

一副船將（ヒスアトミラール）　十五發

一コンシユルゼネラール　十一發

一ベーリー第一等之船將（カピタン）　同斷

一返砲ハ先方之員數ト同數ナレ𪜈同國ニ於テハ先方ノ將官之階位ニ因リテ返砲スヘシ乃チベーリー之船將ベーリー之第一等船將ニ對シ祝砲スル節ハ十一發ナリベーリー之一等船將其節之返砲ハ五發ナリ

戰爭之節諸士官之地位

一船將ハパセレール上或ハヂユネツト上ニ居リ諸運動ヲ指揮スヘシ

一小林氏ハ船將之近傍ニ居リ船將之號令ヲ傳フ可シ

一西川氏ハ艦内之諸所ヲ通行シ諸隊ニ注意シ傷人等出來シ人數不足ナル隊アラハ命シテ人數ヲ十分ニセシム可シ

但ガイヤールダバン之上ヲ地位ト定ム可シ

一長田氏ハヂユヲツト之上ニ居リ旌旗合圖旗ヲ司リ艦車側ヲ指揮ス可シ

一市川氏渡邊氏丹下氏ハマシ―ヲカ―ムルニ居ル可シ

一淺羽氏ハ甲板上之中央ニ居リ「マヌ―ブル」ヲ指揮ス可シ

一鈴木氏筒井專一郎氏ハ淺羽氏ヲ助ク可シ

一島津氏ハ大砲列ノ中央隊ニ居リ船將之號令ニ因リテ指揮スヘシ

一松村氏ハ前部之「ヂヒシヲン」ヲ指揮ス可シ

一大澤氏ハ後部之「ヂヒシヲン」ヲ指揮ス可シ

一皷手大澤氏ハ船將之號令ニ因リテ皷ヲ打チ再告ス可シ

一監察小林錄藏ハ艦内諸所ヲ通行シ諸武器之混亂セサル樣取締ヲ致ス可シ

一俗事役永井氏ハ水夫部屋ニ於テ兵粮ヲ司リ傷人ヲ船之内部ヘ持運ヲ指揮ス可シ

一俗事下役ハヲバンカレ―ニ於テ破裂彈之運送ヲ指揮ス可シ

一淺羽氏筒井氏ハ運用并小銃方ヲ指揮ス可シ

一鈴木氏ハ火消役ヲ心得運用ヲモ指揮ス可シ

一大澤氏ハ後部之小筒方ヲ指揮ス可シ

一小林氏ハ接戰之節小筒方ヲ指揮ス可シ

一接戰之節一番ニ敵船ヘ乘移ル士官西川氏松村氏ナリ

一同後部備島津鈴木兩氏

一接戰之節甲板上ニ居ル士官人少之節ハ同處ニ於テ指揮ス

ル士官渡邊氏ナリ

一同火消ヲ司ル士官丹下氏

戰爭ノ大皷

一皷手戰爭ノ爲ニ乘組員ヲ呼出ス爲ノ皷ヲ擊タハ直チニ衆人自己之守場處ニ赴キ戰爭都テノ用意ス可シ此事件最モ早ク執行セント欲セハ大皷第一聲ニテ諸隊小銃馬上砲及ヒレホルブルヲ帶ル人ハ直ニ各自己之タス等ヲ帶著ス可シ而シテ自己之持場所ニ至ラシムルナリ右整テ兩舷砲放射ノ命令アラハ兩舷大砲放射故障無キ樣ニ爲スヘキナリ

第二番砲ニ於テハ砲ノ右側ニ在ル砲司ハ右舷砲ノ左側ニ在ル砲司ハ左舷ノ砲門ヲ開カシム可シ尤モ砲之向ケ方ハ左右其時宜ニ隨ヒ命ヲ下ス可シ帆檣者ハ其半隊ヲシテ都テ運用方ノ命ヲ受シメ戰爭ノ用意ヲ整シムルナリ

松村氏ハ裝藥彈丸運送之手續キヲ成ス爲メ夫々之掛リ人ヲ集メ銘々其持場之所業ヲ命シ又彈丸引揚之タ―リ―ハ幷裝藥ノ持出シスル爲メ火藥庫戸ヲ開カシムルナリ

右之事々調整スルヤ否松村氏ハ是等ヲ島津氏ニ告ク又是ヨリ西川氏ニ告知ヲシム

島津氏ハ大砲之第一ノ「ジヒシ―」ヲ指揮ス可シ大砲諸隊整練ナルヤ否ヤ島津氏ハ接戰者ヲシテ各自己之小銃等ヲ帶

スル爲ニ其貯所ニ赴カシム爰ニ於テ小銃小頭ハ火藥庫ニ赴小銃馬上銃六挺銃ノ裝藥管ヲ入ルタスヲ取出シ以テバック下ニ至リテ之ヲ配當ス可キナリ

右等之時間中牙檣小頭ハ二〇八、二五八、三〇八、三五八、之小銃者ヲシテ火難ヲ防ク爲ノポンプヲ用意ナシ船底ニ在ルセーユヲ甲板上ニ持出シ其半ハ前部又半ハ後部之備ニ置ヘシ

楫取頭一人ハ楫所ニ於テノードタリーヲ備置キ車之損欠ヲ償フニ具スヘシ又カンパンエニ在ル楫取頭ハ合圖旗「ゲヘームセイン」及國旗ヲ司リハツフル損欠之節國旗ヲ揚ルフフストック之用意有ルヘシ

市川氏ハ火焚職人ヲ指揮シテ器械室ヲ掩フ爲之ロストル其外之用意セシム可シ殊ニ器械ノ旋轉ヲ試ミル可キナリ又火消ノ爲ニポムプヲ使用易カラシムル之用意ス可キナリ

大工長九〇一ハ船内各部ニ於テ舷外ノ水漏スルヲ防ク諸道具ヲ各部ニ備ヘ置キ并パテンスポールトハ悉ク密閉ナルヤ否ヤヲ諸方見廻ル可シ

帆縫者ハセールヅークハーレンナールドヲ用意爲シ置キ以テ實用之帆類之損破ヲ繕ヒ補フ可キニ具ス可シ

運用方士官ハ帆檣ヲ氣附ケ檣本ニ諸綱具タリーヲ之類ヲ置カシメテ不時ニ損欠セル綱具ヲ取替セシム可キニ具ス者ナリ負傷人ノロイクハ開キ置テ是人ヲ請取可キ用意ス可シ

右用意都テ整練ナル時ハ島津氏皷司ニ命シテ「ル―レマエント」皷譜ヲ擊タシメ此時衆人持場ニ於テ行義正シク位置ヲ整フ可シ其時砲手ハ可成丈ケ充分ニ備フヘキ爲ニ一或ハ二砲ヲ使用止メシメ此砲手ヲシテ他之不足ヲ充備セシムルナリ

右等之事件畢ヲハ島津氏之ヲ船將ニ告知ス可シ

其後甲比丹一等士官ト共ニ船内各部ヲ通行ス其時其場所毎ニ指揮スル士官ハ皆同伴ス可キナリ

右之見廻相畢ル后チ武器脱放之命アヲハ衆人各位之武器ヲ兩舷壁ニ建置キタス等而已ヲ帶シテ而后戰爭之調練ヲ始メシム可キナリ

戰爭調練之行法

既ニ擧ル一紙之規則書中戰爭之調練ハ次ノ如シ

士官ハ各自己之持場所ニ至ル可シ

船將ハ本船ト敵船之距離ヲ考定シ以テ其船ノ前後ノ差別アリテ其目的之遠近及ヒ方向ヲ告知セシメ加農放火之命ヲ施ス可シ

其隔リ減省シテ接近スル時ハモスケ―トリ―短器ヲシテ卒放火セシム帆檣手ハマルス上ニ赴カシムルノ令ヲ施スヘキナリ其後エントルジヒシ―及ヒモスケ―トリ―之副員ヲ呼出ス可キナリ右之時間中大砲ハ第一番手之エントルジヒシ―ヲ呼出シ其襲船强大ナル時ハ其二番手及ヒ前部之水夫ヲシテ出張セシム可キナリ彈射手ハ敵ノ甲板ニ散

彈ヲ投射スル爲ニ帆桁上ニ走リ出ス可シ鎗帶セル裝藥手ハ自之加農ニ在ル其砲門ノ守衛アル可シ其他右等ヲ重複シテ運用各種ヲ熟考セハ運用增員ヲ呼出ス可キナリ此時宜ニ及ンテ船中彈丸ノ爲之放火ニ注意シ又消火役ヲ呼出ス可キナリ

右等之事件畢ル後各自己之場所ニ戻リ再令有之迄ハ大砲之使用ヲ司ラシム可シ

戰爭中種々之「デタセ―メント」役割ヲ呼出ス合圖之區別

一モスケ―トリ―之增加　端舟ニテ上陸之鼓及ヒ一「スラフ」

一接戰之モスケ―トリ―　同上　及ヒ二「スラフ」

一一番手之ユントルシヒシ―　加農調練呼出鼓及ヒ一「スラフ」

一二番手之同上　同上　及ヒ二「スラフ」

一運用手之增加　水夫甲板上呼出シ笛

一一番火消手　鐘擊・・・・・

一二番同上　鐘擊・・・・・・・・

戰爭中裝藥之運送

一戰爭中ニ裝藥ノ運ヒヲ最簡易ニナスニハ大砲ニ少クトモ二箇之コ―クルヲ備ヘ置キ常ニ晝夜之差別ナク其形狀色ドリ等ニテ容易ク見分ケ易カラシムヘシ

一每砲之裝藥又其カルツ―スヲ込ミ司ニ渡スヤ否ヤコ―クルヲ持ロイク之方ニ速ニ赴キ空コ―クルヲ藥誥司ニ渡ス可キナリ

一裝藥誥司ハ此コ―クル中ニ速ニ裝藥ヲ充シ又裝藥取ニ渡ス爰ニ於テ裝藥取ハ之ヲ請取リテ再ヒ自己之砲之方ニ至ルナリ

右等之裝藥取モ都合能殊ニ火害ヲ防ク爲ニハ次ニ擧ル如キ造成物ヲ要用トス

一前部之ロイクハ數多之上ケ板ヲ以テ密閉爲シ後部之ロイクハ各種彈藥之運ヒヲ免ス爲ニ其口徑之穴ヲ穿ツ可シ

一之穴ハ充コ―クルヲ出ス爲ニ屬シ其他二箇ハ空コ―クルヲ投入セル爲ニ保有セル者ナリ

第一ノ穴ハ充コ―クルヲ送リ出ス者ニシテ裝藥取手ノ取リ違ヒサル樣明亮之仕組ヲ以テ製ス可キナリ故ニロイクの上ケ蓋ハ二重ニシテ其下板ニ充コ―クルヲ安置ナシ其上板ニハ各種之コ―クルニ附屬セル穴ヲ明クヘキナリ

右ニ擧ル板ハ皆取外シ易クシテ戰爭之節而已之ヲ備フル者トス

一第二之穴ハ空コ―クルヲ投入セル者ニシテ右之上ケ蓋中ニ二箇之穴ヲ穿チ右舷左舷ニ分チ備フ

一此穴中ニハ布製之袋管ヲ置キ其下端ハ水夫部屋之水桶上ニ達セリ其管中ニ空コ―クルヲ投入セル時ハ右水桶中之網上ニ至リテ止マルナリ

一水夫部屋ニ在ルコ―クル掛リハ右水桶上ニテコ―クルヲ開キ吟味改方ナシテ之ヲ火藥庫ヘノ運ヒ又此ノ如シ

一上ケ蓋每ニ充コ―クル之運ヒ穴壹ツ宛置クヘシ其見分方ハ水夫部屋ニテ爲ス可キナリ

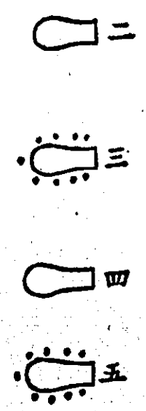
一富士山船如キ軍艦ニテハ火藥庫之ロイクハ二ノ管二ノ穴ヲ備フニ益無シ只右舷左舷トモニ一管ニテ通合シテ使用ス可キナリ

兩舷ヲ武備スル事

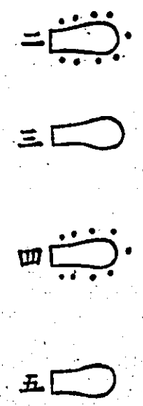
若夫兩舷之大砲ヲ同時ニ打時ハ左ノ如キ法ヲ以テ各砲ヲ備ヘスンハ有ル可ヲス

砲臺偶數之大砲ハ左舷ニテ武備ナシ奇數之大砲ハ右舷ニテ武備スヘキナリ故ニ爰ニ擧クル圖ニ因テ各砲之備ヲ知ル可シ

右舷



左舷

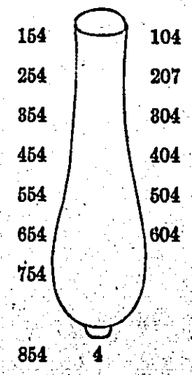


其後各砲右側第一ヨリ第四マテ之砲司ハ其他舷之同砲ニ赴キ第一砲司ハ其砲長ト成リ第二第三之砲司ハ其込メ司トナリ第四ハ其砲ノ左側第二砲司トナルヘシ

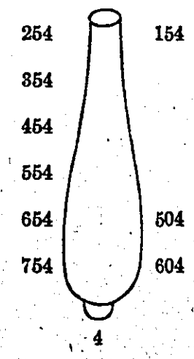
本砲ニ於テハ左舷之第一砲司ハ右側ニ廻リ右側第一之砲司トナリ又左側第二砲司ハ同側之第一砲司ト爲リ又第三ノ砲司ハ第二ヘ繰上トナルヘシ

裝藥取ハ兩砲ヲ兼テ司ルヘシ本砲之砲長ハ「チュヲイル、セ―フ」ト稱シ又他舷之砲長ハ「プロゾア―ル、セ―フ」ト云フヘシ其他兩舷砲之込司ト裝藥取手ヲ除クノ外都テ砲司ヲシテ運動砲司ト稱フ故ニ兩舷之砲ヲ兼テ勤ムル故ナリ兩舷

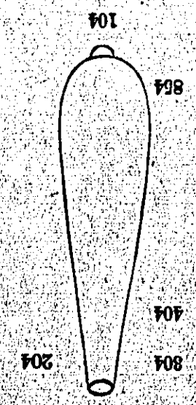
之同砲ヲ武備スル法次ニ擧ルカ如シ



此砲隊ヲ兩舷ニ備フルニハ



運動砲司之兩側ニ同數ニ並フルハ其砲長之指揮スル所ナリ



諸端舟心得之部

一端舟カノット中常ニ附屬セシムヘキ諸品左ノ如シ

一舵
一旗棒
一旗
一テンツ
一箱　此内ニハ敷物、旗、細旗、ルールペンルイドル等ヲ入レ置クナリ
一ホースハテン
一麻束　是ハカノットノ汚レタルヲ拭ヒ或ハ泥履等ヲ清ムル爲ナリ
一敷物
一リーメン　其船ニ立ツヘキ數丈ケナリ
一帆走ノ節ノ旗
一其他イヨル及ヒバレニエル舟ニハカ大一挺小一挺而ルイトルハリーメン之員數ニ準シ之ヲ備フヘシ
一ルールペン
一細旗棒
一細旗
一テンツストック
一錨及綱
一繋索
一水樽　一或ハ二
一桶　是ハ陸ヨリ水ヲ汲來ル或ハ寒氣之節砂ヲ入レ火ヲ貯フル爲ナリ
一帆及檣　但帆ハスコートメーリー等ヲ備ヘタルモノ

但其ルイドルニハリ—メンヲ縛リ留ル爲ノ紐ヲ一ヶ具シ置ク可シ

一カノットニハグランガツフ二挺ベテ—ガツフ一挺ヲ備ヘ置ク可シ

一右之諸端舟ニハ一々覆布ヲ備ヘ平常ハ帆車之内ニ納メ置クヘシ只運轉中ニハ炭煙ノ爲ニ汚レサル樣之ヲ以テ掩フ爲ニ具シ置クヘシ

端舟中諸品置場規定

一都テ端船ヘ備置處ノ木製之者則チ檣及ハ—カ、リ—メン等ノ如キハ何レモ能ク洗掃ス可シ

一塗方ハムヲ無ク塗ル可シ

端船ニ備フル諸金物類ハ何レモ琢磨シテ光ヲ保タス可シ

一帆及檣ハ端船之中央ニ聢ト結付ケ旗棒及ヒ細旗棒ハ其檣帆之下ニ收メリ—メンハ其檣帆之側ニ圖ノ如ク置ク可シ

一二箇ノ大ハ—カハ檣帆之左右ニ置キ鍵先キヲ舳之方ヘ向ケ置ヘシ一之小ハ—カハ中央ニ置キ此先ヲ艫之方ヘ向ケ置クヘシ

一繫索ハ心ヲ用ヒテ亂レサル樣渦卷ノ如ク爲シ置ヘシ

一錨及綱ハ舳之下底ニ貯ヘ置ヘシ水樽及ホ—スハ—テン及桶ハ帆檣之下邊ニ並ヘ置クヘシ

一諸品入之箱ハ帆檣之下邊ニテ艫寄之方ニ置ク可シ此箱之内ニハ敷物及ヒ旗類ヲ入置クヘシ

一テンツハリ—メン之脇ヘ縛リ置且其棒ハ其他ノ船縁ニ釣